



参考資料

第7次青梅市総合長期計画基本構想・基本計画の答申に伴う付帯意見

令和4年11月16日

青梅市総合長期計画審議会

第7次青梅市総合長期計画の策定に向けた「青梅市総合長期計画審議会」は、青梅市長からの諮問に応じ、青梅市総合長期計画基本構想・基本計画に関する事項の調査審議を行い、それらを取りまとめ、答申するため、11回にわたり審議会を開催し、検討を重ねてきました。

これまでの検討の中で、14名の委員から、それぞれの専門的知識や立場などを背景とした意見が出され、それらの多くをそのまま、またはエッセンスとして答申の中に反映させました。

しかし、各委員から出された多くの意見を答申に反映させた一方で、意見の中にはより具体的な事業レベルのものや、より大きな方向性に関するものなどもあり、全体のバランスを考えながら整理してきた答申へ掲載されないものもありました。

こうした意見については、10年後の青梅市をどのように描いていくか、各委員の強い思いがこもったものであることから、今後青梅市における行政運営に対する視点として、活用していただきたく、答申とは別に参考資料としてとりまとめ、青梅市長に提出するものです。

全体的事項

・計画にプロモーションの役割があるのであれば、これを動画にして市役所や市民センター、ホームページなどで公開すれば、いろいろな人が気楽に見られると思います。

・パブリックコメントを見て思ったのは、無理してすべてにオリジナリティを出すのではなく、自然体な形でやっていけるものは大事にしていければと思います。

・他よりも上だ、1位だ、ということよりも、本来の目的は、青梅市であろうが何市であろうが、みんながハッピーであることだと思います。ナンバーワンになると書いておきながらできていないじゃないかと一方的な批判をする向きが出てくると思えば、なかなかナンバーワンを目指しますと書きたくならないだろうと想像します。また、行政のみなさんが重荷に感じるような表現の工夫も希望します。

・みんなが、人を責めたり責められたりすることなく、安心感をもって、そして、そのうえで、ワクワク、生き生きしながら働いている青梅であつたらいいなと思います。

・学校教育の観点でいうと、あらゆる分野が子どもたちの関心事になるので、この計画を分かりやすく子どもたちに伝えるようなパンフレットや資料を提供してほしいと思います。学校バージョン、先生バージョン、子どもたちバージョンに落とし込むような取り組みをしていただければと思います。誰もが知っている計画となるようにしていただきたいです。

・よくまとまっているので、多くの市民に読んでもらいたいと思いますが、子どもには分かりづらいと思うので、子どもにもかみ砕いて分かりやすく説明したものを読ませてあげたいと強く思いました。子ども向けに内容をまとめたものをぜひ作っていただきたいです。

・長期計画の策定は法律の義務から外れており、自治体が自由にやっていいはずだと思います。例えばビジョンやイメージをつくる部分と、個別計画に横ぐしを入れて総合的な総合計画をつくる部分は別に扱ってもいいのではという気がします。ビジョンは小学生からシニアの方まで、様々なワークショップを繰り返すことで1枚の絵のようなものをつくっていくなど、文章のかたちにするのではない、新しいやり方でもいいのかなという印象をもちました。

・市にこのような計画があることを知らない人がほとんど。知らないのはもったいないので、よく読んでいただくようにして、地域のことを自分事として考える人が増えれば、市がよくなっていくと思います。

・市民の声を聞くことは大事なので、市民も一緒になって進めるという考えで、計画を推進してほしいと思います。全ての施策を行う上で、市民協働も共通する視点として、持っていてもらいたいです。

・この計画は、様々な関係者が一体となって進めていく必要があります。計画を応援してくれる人を作っていくべきです。

・市民の方々が納得する取り組み方、成果の出し方が必要だと思います。取り組みの途中経過が見える化する。段階的に目標を設定する。例えば、ステップ1～ステップ4、最終的にステップ5が完成・達成とする。万が一、ステップ5まで到達できないとしても、ステップ4までの成果について市民の方々が納得できるものであればよしとするというように、3年後にはここまで、6年後にはここまで達成させるというような具体的な途中目標を盛り込んでもらえればと思います。

・目指す姿の達成度合いはどのように測り、市民はどこで確認できるのかと疑問に思います。一般市民の税金で進めていくので誰でも達成度合いが見えるようになっていたほうがいいと思います。

まちづくりの各基本方向

1 健康・医療・福祉

1-1 生涯にわたる健康づくりの推進

・健康について、公民が連携して健康づくりを目指す、健康づくりプロジェクトを立ち上げてはどうかと思います。

・キーワードとしては、「優しいコミュニケーション」です。医療の場にしても介護の場にしても、そこに行くとき優しい言葉をかけてもらえるということが大切かなと思います。優しいコミュニケーションがあると10年後の青梅のワクワクにつながると思います。

・薬物乱用や過度なダイエットについてのことなど、健康に関する教育の充実に健康学習を学校の保健教育と関連させ、特に感染症予防に重点を置きながら、理解と予防を図るよう啓発すべきです。

・食品安全や生活習慣病の予防などを踏まえ、学校で進めている食育を市全体で取り組んでいくべきだと思います。

1-2 安心して受診できる地域医療の充実

・医療に関しては、新町クリニックを拠点にするという資料があったかと思いますが、そういった拠点が青梅市にもあるとワクワクするなと思います。

・「あそぼうよ！青梅」とありますが、例えば病院で遊ぶことができると思う。病院に行く時はメンタル的に落ち込みがちだが、楽しいから行ってみようという場所になると素敵だなと思います。悲壮感を払拭できるキーワードを何か見つけられたらなと思います。

・すべての市民にはかかりつけ医がおり、最先端のDNA検査等で病気のリスク管理を行う一方で、万が一病気になっても迅速に対応できるよう家庭版ナースコールのようなものが普及しているとありがたいです。

1-4 高齢者福祉の充実

・福祉というとボランティアセンターや社会福祉協議会が入り口になります。障がい者の場合は障がい者福祉課、高齢者の場合は高齢者福祉課があり、トータルしたところに社会福祉協議会がありながら、行政とのつながりが分かりにくいです。その辺りが明確になると利用者がどこにお願いするか分かりやすくなると思います。

・介護や障がい者福祉の対象になっている方々の意見を聞く場があるとよいと思います。また、ひとり親への支援があるとよいのではと思います。

・高齢者のクラブ活動、老人会が青梅市にもたくさんありますが、会員の減少、役員のなり手不足など色々な課題があります。また、今まで活動していた人も超高齢化してきており、老人会が休止状態になってきている。活動がなくなった人たちが、今後どのように生きがいをつくっていくか、方向性を示してあげる必要があると思います。

・高齢の人が集まるグランドゴルフなど色々な会がありますが、施設が老朽化しており、やる場所の問題が今後どうなっていくのか心配です。特に室内で競技されている方たちが今後10年後に施設があるのかないのか心配しています。高齢者が生きがいを持って楽しんで暮らしていけるという意味では施設の拡充、整備が必要だと思います。

・重要だと思ったのは多世代交流。地元の年配者と若者との交流が増えるとよいと常に思っていて、地元の保育園等では老人ホームへの施設訪問があるがそれだけではなく、小中高生や若者と高齢者が交流する場所があるとよいと思います。

・何もしないで家にいる高齢者が多く、グランドゴルフ会をやっている人が減っています。楽しいですよと声かけしますが、皆さん入りません。多世代交流ということで色々な活動がありますが、東京都では地域の底力発展事業が拡充されたので活用してもよいと思います。

・今後高齢者が増えていく中で一番問題になってくるのが介護だと思います。「多様な人材の確保や介護現場における処遇改善」とありますが、ハローワークと連携して休眠している介護士の再雇用や介護だけの派遣システムの構築など早急に進めるべきだと思います。

・資金難で機材を導入できない施設などに、市から機材レンタルをするシステムを5年間で構築するなどあってもいいのではと思います。最終的には人材派遣システムや機材レンタルシステムを青梅市独自の介護システムとして構築していくほうが建設的だと思います。

2 子ども・若者・教育・子育て

2-1 子ども・若者支援の充実

・子育て支援の現場にいて感じるのは子どもの貧困です。シングル家庭での貧困もしかりです。こどもの貧困解決のためには、子どもたちが生活を通して生きる力を培い、自立する力を養える「安心・安全」な居場所が必要です。

・コロナがもたらしたものとして、居場所は物理的なものを想定する必要はないのではないかという考え方です。メタバースに可能性を感じており、例えば引きこもっていても社会参画できると思います。

・子ども達に対することを考えるのもよいですが、それを後押しするボランティアなどの担い手となる人を育てる必要があると思います。ボランティアを育てるというキーワードがあってもよいと思います。

2-2 子どもが自ら未来を切り拓く学校教育の充実

・教育の中でダメ出しをすると萎縮して小さくまとまってしまいます。青梅市ではダメ出しをしない教育ができるよう、うまく膨らむようなキーワードが入ってくるとワクワクする教育になっていくのではと感じました。

・これからの社会ではグローバルな言語や考え方を身に付けることが重要になるかなと。例えば小中一貫で英語教育をしたり、英語特区をつくってもよいと思います。

・お金について学ぶ金融教育も社会に出るために必要だと思います。今年度から高校の授業に組み込まれますが、高校生になる前から一定の知識を学んでもらってよいと思います。

・読書のまちということで図書館と学校の図書室の連携強化と本を読む風土をつくっていくことも大事だと思います。

・学校間の連携、幼保小の連携、小中学校の連携というように学校間の交流を深め、つながりを強化することが、学校の活性化につながると思います。

・郷土愛の教育ということで青梅学を提案していますが、青梅を学ぶ総合的な教育施設があるとよいかなと思います。

・パブリックコメントで気になったのは、学校は明るくきれいなほうが良いという意見。子どもたちが過ごす環境に優先的に予算を割いてほしいと思いました。

・これから学校は自由度の高い教育になってくると思います。その時に小中一貫にすることによって、教育課程の中身が重複した内容を削除しながら新しい教育に取り組む機会が出てきます。

・ひとりひとりのこどもをしなやかに、たくましく育てることが大事です。
こどもが減っていく中、多様性として違いを認め合って協力しあえる人を育ててほしいです。

・強みを持つこどもを育て、個性を発揮する場面をつくってあげてほしいです。

・学校のハード面は待ったなし。人口が減っていく中、今やらずに後にするほど厳しくなります。建物の改修に合わせて小中一貫校を進めてほしいです。

2-3 地域参画による学校運営の推進

・コミュニティスクールやチーム学校等を進めていくためには、コーディネーターとなる人材の育成や学校配置が必要になります。地域の方が学校とどのように関わるかということが大事になるので、学校を支援するコーディネーターの育成というようなことをしていただくと、具体的なものにつながると思います。

2-5 結婚・妊娠・出産支援の充実

・乳幼児期の相談体制について、相談しやすい環境が不足していると感じています。子育て広場などに相談員が常駐しているわけではないので、親子が来やすい遊び場などで相談できる環境があるといいと思います。

・心配だけど市役所まで行くのは…、という潜在的な相談をどこにつなげていいのかという声をよく聞きます。状況によってどこに相談すればいいか分かるような相談システムの見える化が必要だと感じています。子どもの発達に心配を抱え

ている親は孤独になりがちなので、相談機関の明確なルートがあることで、孤立させない体制が早急に必要だと思います。

3 自然・環境・エネルギー

3-1 森林の適正管理による美しい山の保全

・「美しい山と渓谷」をコンセプトの中心に掲げている以上、山の保全は極めて重要です。山岳リゾートをもつ自治体の計画を参考に、山の保全についても言及すべきです。

・登山道、トレッキングコースを適切に整備・管理し、登山者やトレッカーの安全を守るとともに、決められたコース以外には立ち入らせないようにし、環境の維持に努めるべきです。

・森林と共存する花畑や広場、ベンチ等を整備し、家族連れが気軽に楽しめる空間を設けるべきです。

・ごみになるものを持ち込まず、発生したごみは必ず持ち帰る、という習慣を定着させるべきです。

3-3 快適な生活環境の確保

・ごみ問題や公衆トイレの問題などで地域の皆さんが悩んでいると思います。また、公衆トイレがきれいだと観光客も来ると思いますので、青梅市としてもそこに力を入れていくといいと思います。

3-5 ゼロカーボンシティの実現に向けたまちづくりの推進

・青梅市の自然環境エネルギーを学ぶプロジェクトを立ち上げ、子どもの時から自然・環境について学ぶことが大事だと思います。教材化ということになるのかもしれませんが、企業や行政と一緒に進めることが大事だと思います。

4 都市基盤・防災・安全

4-1 都市環境と自然環境が調和した土地利用

- ・今後の青梅のビジョンを考えるうえで、地域を離れて、大学などの都市基盤を研究している人たちに青梅市を評価してもらうことがあっていいと思います。

4-2 みどりを生かした快適な都市環境の整備

- ・公園整備について、市民や来訪者が安心して散策でき、何かあったときにも避難経路等として活用できるよう、ハイキングコースの整備やトイレの適切な設置が必要です。

- ・公園については、遊具を多摩産材を活用したものに置き換えていくことで、林業対策や郷土に対する愛着にもつながります。

- ・市民協働、公園管理、教育、自然環境に関わってくることについて、公園の管理面で考えると火が使えるなど、禁止することばかりになってしまう。子どもの最善の利益を考えると、教育の際など目的に応じて柔軟に対応できるようにしてほしいと思います。自然体験ができるのは青梅市の特徴だと思うので、公園の利活用という部分も含め話し合いの場を設けてもらいたいと思います。

4-3 多様な公共交通網

- ・公共交通について、小曾木地区や成木地区などは西武鉄道を使うことが多いです。観光や移住定住施策を推進する際には、JRだけでなく、西武鉄道との連携も考えるといいのではないのでしょうか。

- ・コミュニティバスもそうですが、駐車場がないことを痛感しています。働く場所や買い物場所など、駐車場の確保が経済に反映されてしまうと感じています。駐車場がある市外の商業施設に人が行くなど消費が外に流れてしまうと思います。民間でやるのは難しい部分もあるので、自治体として取り組んでいただきたいと思います。

- ・「新たな公共交通の導入に向けた取組の推進」とありますが、グリーンスローモビリティ等が地域の足や観光地の回遊性を高めるのに有効だと思うので、ぜひ進

めていただきたいと思います。その際、ハード面だけではなく、運転手の確保などソフト面でも調査研究をしていただきたいと思います。青梅市に多くある福祉施設の車両運転経験者を起用することができると、より持続可能な体制になると思います。

4-4 快適で安全な道路の整備

・「歩行者にやさしい道路空間の構築」について、ベビーカーに優しくない道路だと感じています。ここにベビーカーも入れていただけたらなと思います。また、小中学生がキックボードに乗っている姿をよく見かけます。都心では電動キックボードが問題になっており、今キックボードに乗っている子どもたちが10年後大人になった時に、そのまま移行する可能性もあるので、文言として入ってもいいのかなと感じました。

4-6 消防体制・防災対策の強化

・災害に強い青梅市の強みを更に伸ばすためには、デジタル、情報通信技術を活かした防災・減災が有効であると考えます。防災・減災には事前準備が重要となりますが、その施策として、市内の河川を監視するカメラを街路灯に設置し、その映像をYouTube上で公開すれば、一般市民もリアルタイムに状況を確認することができ、スムーズな避難につながります。

・市で働く人、観光客、外国人などの「命を救う仕組み」も必要です。その方法としては、府中市が電柱に避難所案内板を設置したという例が参考になります。また、災害によるストレスの軽減は、健康分野にも相乗効果が見込めます。

・災害が起こったときの避難場所について、小さな子どもを持つ家庭も安心して避難生活を送ることができる、公共施設を活用した避難場所の設置を伝えるシステムがほしいです。例えば、保育園や子育て広場であれば、子ども用の布団やおもちゃも確保されています。障害を持っている子どもに対しても、事前にニーズをリサーチし、受入可能な避難場所を伝えられればいいです。

・最近では電力の需給ひっ迫が想定されています。再生可能エネルギーは不安定であり、火力発電所は廃止される中、原発を待つしかない状況です。自衛手段として各自が分散電源を持っていくしかないと思います。

・防災に関して、拠点となる学校の設備の問題や避難所として機能できるための訓練が浸透しているのか、心配しています。機能を十分発揮できる体制づくりや施設設備の見直しをしておく必要があります。

・中学生になると、避難訓練ではなく、防災訓練を意識して教育を進めていくことが重要です。子どもたちも、まちを守る、人を守る役割を担っていることを指導していく必要があります。

5 歴史・文化・生涯学習

5-1 歴史・文化の継承・活用

・伝統文化の継承・活用について、デジタル化として文化活動の電子保存を行い、市役所やいろいろな場所で公開したり、学校での教材として活用していただけたらと思います。

・学校教育などでも学芸員さんを活用してみてもどうかと思います。

・「5-1 歴史・文化の継承・活用」に「文化財の活用・保存」、「伝統文化の周知、発信の充実」などがあり、地域人材にも触れていますが、まだまだ地域に色々な分野に詳しい方がいるので、そういった人をリストアップして有効的に活用することも大事だと思います。

5-2 文化活動の振興

・青梅市は芸術家にとって住みやすいところです。野外に芸術作品を並べるなど、芸術家が多いまちとして取り組んではどうでしょうか。

5-3 多様な生涯学習の推進

・自然と産業と工芸をつなげて、遊び学べる科学館があるといいなと発言しましたが、複数の項目に跨がるので取り込みづらいかと思っていました。しかし、自然は文化・芸術・産業の源になるので、そこを知っていくことが教育の根本にあるといいのではと思います。

5-4 スポーツ環境づくりの推進

・スケートボードや3人バスケットができる施設があると、若者が集まってくるのではないのでしょうか。

6 地域経済

6-1 基盤産業の振興と地域内企業の活性化

・子育て世代の人たちから、都内に通勤しているため、育休後に仕事をやめるか、移住するかの選択に迫られるとの話をよく聞きます。青梅で雇用の場があれば、違った選択ができるのではないのでしょうか。これまで培ってきた経験、資格等をうまく生かせる仕事をコーディネートしてくれる場、転職をサポートしてくれる場があればいいと思います。

6-2 世界に向けた地場産業の振興

・地場産業については日本酒などありますが、全国にもっと売り込まないといけないです。また、半導体関係や微細ガラス管など特異な商品もあり、こういったものを売り込むべきです。税金にも直結してくるので、そういった意味でも観光と地場産業を一元管理して情報発信するという考えを持っていただきたいです。

6-4 スタートアップの支援と円滑な事業承継の実現

・起業家教育、つまり青梅でどのような仕事ができるのかということ子どもたちに考えさせるような教育も必要ではないかと思います。

・イノベーションを起こすには、失敗しても責めないマインドなど、周りの環境づくりが大事です。

6-5 稼げる農林業の推進

・食の安全保障は重大な問題ですし、物流が途絶したときにこの地域をどう守るのか、“農”がキーワードになるのではないかなと思います。有機農法が大事だと思う。食べて最後まで生きられる場所になるとよいと思います。

・林業について、山で育てている木々が海の資源を豊かにし、海産物を育てている、ということは、知ってはいるが実感できません。トータルに食をつなぐようなイベントができれば、農林業の振興にもつながると思います。

7 コミュニティ・共創

7-1 様々な地域コミュニティ活動の活性化支援

・自治会は行政に頼らず、自治でいろいろなことを解決していく絆のネットワークだと思います。そういったところを見直し、リニューアルしていくといいのではないのでしょうか。

・自治会と併存するような地域のつながりを取り戻すといいと思いました。若い人たちは、固定したネットワークではなく、異種、課題で集まる柔軟性のあるつながりで動いている人がたくさんいます。今の時代にふさわしいコミュニティが生まれます。

・青梅市は、移住者を温かく迎える雰囲気があります。出ていった方に対しても温かく送り出し、また帰ってきてもらえるような仕掛けがあるといいと思います。そういった活動を通じて地域への愛着や誇りが自然に生まれるのではないのでしょうか。

・学校規模が小さくなると、子どもたちも仲間内だけのコミュニティになりがちです。山間部、都市部に関わらず、子どもたちの交流を深め、コミュニティの基礎をつくっていく必要があります。

・小中学生が地域の活動の幅を広げ、積極的に関わるようなことを日常的に教育の中で取り組んでいく必要があります。また、青少年リーダーに参加した人たちが、研修したことを生かす場をつくってやることが重要です。

・SDGsの169のターゲットの一つに、道路交通事故による死傷者を半減させるというものがあります。「SDGs地域活動」など、興味をそそるように表現を変えるなど工夫が必要です。

・つながりを求める潜在的なニーズはこれまでよりも強くなっているのではないのでしょうか。従来の対面的なつながりだけでなく、デジタルを活用した非対面のつながりを含めたハイブリッドなつながりが求められます。

・自治会について、若い人はメリットを感じないと入ってくれません。自治会も

変わっていくときであると実感しています。

7-2 多様な主体による協働・共創の推進

・共創プロジェクトには、消費者や企業、人材育成に関わる団体等がいろいろな提案をしてもらいたいと思います。市には窓口をつくってもらい、たくさんの提案を受け入れ、可能なものは実現させていってほしいです。

・青梅市にはいろいろな市民団体があります。市民団体は身の回りの細かな視点を持ち、行政は大きな視野でいろいろなものを網羅して取り組んでいます。この2つを上手につなぐ機能がほしいです。

・市民協働事業等の予算をもう少し希望の見える額にしてほしいです。また、1回だけのイベント的なものではなく、持続していくためには委託を増やしていく形がよいと考えます。専門性の高い業務は、外注や委託が望ましいと思います。

7-5 平和・多文化共生社会の実現

・多文化共生社会の実現について、いろいろな国籍の方々が青梅市に住んでいるので、国際市、国際イベントのようなものを開催しても楽しいのではないかと思います。

8 行政経営・行政サービス

8-2 質の高い行政サービスの提供

・市役所での手続の場所がわかりづらいとの声を聞きます。1階に総合的なカウンターが設置されると親切だと感じています。何を相談したらいいかわからない、という人が相談できる窓口があるといいと思います。

・生活に困難を抱えている人にとって、役所での手続はハードルが高いです。まず相談できる場所があるのは安心にもつながります。窓口にとどまらず、市役所内の横の連携を密にし、一人ひとりのことを総合的に考えられるようなワンストップ的な仕組みができるといいと思います。

・人材育成について、市役所職員の労働条件が気になっています。職員の非正規化が進んでいる現状があると思います。基幹となる職員が安心して働けることが重要です。

・公務員の仕事には、時間的にも人数的にも限界があります。民間と行政の橋渡しをするような柔軟性のある人材を、目的に応じて育成、採用すべきであると考えます。

8-3 より伝わる情報発信と開かれた市政の推進

・市民センターの図書館は、蔵書が古くなっています。また、パソコンが使える環境がありません。そういう環境で利用者が減少し、統廃合されてしまうのは残念です。市民センターが情報発信の基地になってもらいたいと思います。

・市役所各階の窓口にチラシがたくさん置いてありますが、1階にまとめておいておくと、もっと市民に見てもらえるのではないのでしょうか。

・いろいろな行政資料が紙ベースではありますが、デジタルアーカイブ化され、行政図書館、政策図書館的なものがあるといいと思います。図書館は知の殿堂であり、本だけでなく、いろいろな情報が発信される図書館が、市民のアクセスしやすいところにあるといいです。

8-4 健全で安定的な財政運営の推進

- ・ 公共施設再編、利活用について、郷土博物館はよほど興味がないとなかなか足を運びません。素晴らしい資料がたくさんあるので、子どもから楽しめるような、入りやすい博物館になるといいと思います。

- ・ 公共施設は、新しい建物を建てるというより、ネットワーク化や近隣市町村との相互利用、民間施設の活用ができるといいと思います。各施設を循環バスが走っていれば、アクセスも問題ないのではないのでしょうか。